ACTIVITY

長内川に楽しいイベント大集合

川と親しみ自然の大切さ実感

8月5日、長内川川まつりが新街橋上流の河川敷広場で開かれ、親子連れなど約１２００人が会場を訪れました。

地域住民の川への関心を高めるために開催している同まつりは今年で16回目。

毎年大人気のウォータースライダーや浮き輪レース、カヌー・カヤック体験など、川と親しみ、楽しめるイベントが会場を盛り上げました。

また、「森と湖に親しむ旬間」の企画として設置された木工作りやリース作り、丸太切りなどの各コーナーにも熱心に作業する参加者の姿が見られました。

晴天に恵まれた会場内にはポンプとホースが設置され、くみ上げた水を放水する係員の先には、歓声を上げてはしゃぐ子供たちの明るい笑顔。子供たちは全身で夏と川を楽しんだ様子でした。

友達とウォータースライダーで川に飛び込んでいた橋場竜也くん（長内小４年）は「イベントがいろいろあって楽しいです。川の水は冷たいけど気持ちいい！これからもきれいな川を守ってほしいです」と自然の大切さを実感した様子でした。

美しい自然環境はわたしたちの財産です。みんなできれいな川を守りましょう。

大人気のウォータースライダー

水をかけ合って元気に遊ぶ子供たち

CAMP

バッタリーキャンプ2012開催

様々な体験通しみんなで協力

7月30日から8月3日までの間、山形町小国の内間木キャンプ場周辺で、バッタリーキャンプ２０１２が行われました。このキャンプは都市部と地元の子どもたちの交流を目的とした自然体験キャンプで、大自然や伝統文化に触れ、人と自然との関わりについて学ぶ内容となっています。キャンプには県内外から30人の子どもたちが参加し、5班に分かれ様々な体験活動を行いました。

7月31日、子どもたちは洞くつ探検と沢登りに挑戦しました。洞くつ探検では内間木洞内を見学。洞内の「熊のねどこ」と呼ばれる場所で熊の爪痕を見たり神秘の門をくぐったりと泥だらけになりながら自然を満喫しました。

8月1日は班ごとに基地づくり。夜の寝場所になる基地をどの場所にどうやって作るかみんな真剣です。木陰や内間木洞のそばに作る班もあり、暑い夜を快適に過ごすため試行錯誤しながら協力し合い作っていました。

初めて参加した沢春奈さん（久慈湊小４年）は「私たちの班の基地は涼しくて楽しいところです。キャンプでは、全身びしょ濡れになったけれど岩場からの飛び込みもあった沢登りが楽しかったです。」と笑顔で話していました。

食事の後片付けはみんなで

基地完成一番乗り！

LEARN

プールで海上保安官の出前講座

海中転落時の対応学ぶ

八戸海上保安部の出前講座は8月1日、夏井公民館と同地区プールを会場に開催しました。強い日差しの中、地区の児童ら約50人が参加。ロープワーク教室や海中転落時の対応など、海浜での事故防止に必要な技術を学びました。

同保安部の津原和宏救難係長は「もし海や川に落ちてしまったら、落ち着いて呼吸の確保、大声で助けを呼ぶ、回りに浮くものがないかを探すことも大事です」と心構えを説明。救命具の使用方法を教わった児童らは、実際にライフジャケットを着装して次々にプールに飛び込み、泳ぎ方や救助方法を体験しました。

水の中で膨らむ救命胴衣を体験した野田泰成（たいせい）くん（夏井小５年）は「急に膨らんでびっくりしました。最初だから心配だったけど、慣れたら泳げるようになりました」と笑顔で話してくれました。

（左から）「海猿」になりきる瀧澤彩芽（あやめ）さんと滝澤里菜（りな）さん

ライフジャケットを着装して普段と違う感覚を体験する子どもたち

COOK

親子でかざり巻きずし作りに挑戦

かわいいパンダに笑顔

8月2日と3日の両日、市給食センターで親子料理道場が開催され、2日間で14組38人の親子がかざり巻きずし作りに挑戦しました。

カラフルなエプロンとバンダナ姿の参加者は、4つの班に分かれて作業を開始。親子で頭を寄せ合いながら調味料の計量、キュウリの千切り、薄焼き卵づくりと順に工程を進めます。小さい細巻きのパーツを組み合わせると太巻きが完成。それをゆっくり慎重に切ってみると、中から桃の花やかわいいパンダが顔を出しました。「あっ、かわいい！」子どもたちからは思わず笑顔がこぼれます。

お母さんと参加した小袖凛（りん）久（く）さん（小久慈小４年）は「パンダの組み立てが難しかったけど上手にできました。もったいないけど食べるのが楽しみ。家でも作ってみたいです」と目を輝かせていました。

太巻きの中から顔を出したパンダに笑顔

巻いてみたけどちょっと不安。中の様子が気になります

TOPICS
東日本大震災・復興関係

慣れた手つきでまめぶをつくりました

キズナ強化プロジェクト

交流を通して深める絆

被災地での復興支援やボランティア活動などを通して海外と被災地との絆を深める「キズナ強化プロジェクト」。第２陣の訪日団が７月29日から久慈を訪問しました。訪日したのは日中関係の将来を担う中国の大学生ら90名。

30日、訪日団は山形町でまめぶ作りを体験。成谷自然食の会、小国古然食の会、まめぶの家の会員らが指導にあたりました。生徒たちはかわるがわる小麦をこねて丸め、手慣れた様子でまめぶを作っていました。まめぶをだし汁に入れ火が通ると試食に。試食した生徒たちは、皆口々に「おいしい」と言っていました。参加者の牛悦敏さんは「餃子料理に少し似ています。餃子は野菜を皮の中に入れて煮ますが、まめぶでは野菜は包まないのですね。味は、だしとまめぶの甘味の組み合わせが新鮮でした。すごくおいしいです」と笑顔で話していました。

午後は市内を散策し、街なか水族館を見学した後、三陸鉄道に乗車して震災について学習しました。

まちなか水族館で津波被害の説明を聞く参加者